男女共同参画（ジェンダー平等）のこれから

―日・韓の比較を通して―

総合政策学部　総合政策学科　2 年　石橋璃子
韓国　・大邱カトリック大学

Ⅰ．はじめに

1．研究背景・目的

SDGs の17の目標の中で5個目の項目、「ジェンダー平等を実現しよう」は世界的に解決を目指している課題です。日本でもこの男女平等については問題視されており、関心を抱くようになったため、この課題に取り組むことにしました。私はテレビのニュースで見る政治家の中で女性議員が少ない事や、SNS でよく耳にするようになったジェンダー平等、フェミニズムなど、性別によって生まれる不平等を無くそうとする運動や言葉によってジェンダー平等というトピックに関心を抱くようになりました。

したがって、ジェンダー平等に対する人々の意識を留学期間中に調査し、日・韓の比較を通して、日本の男女共同参画（ジェンダー平等）のこれからに提言できるようにしたいと考えていました。

2．研究手法

・インタビューやヒアリング調査などのフィールドワークを中心に行う
・文献調査を並行して行う

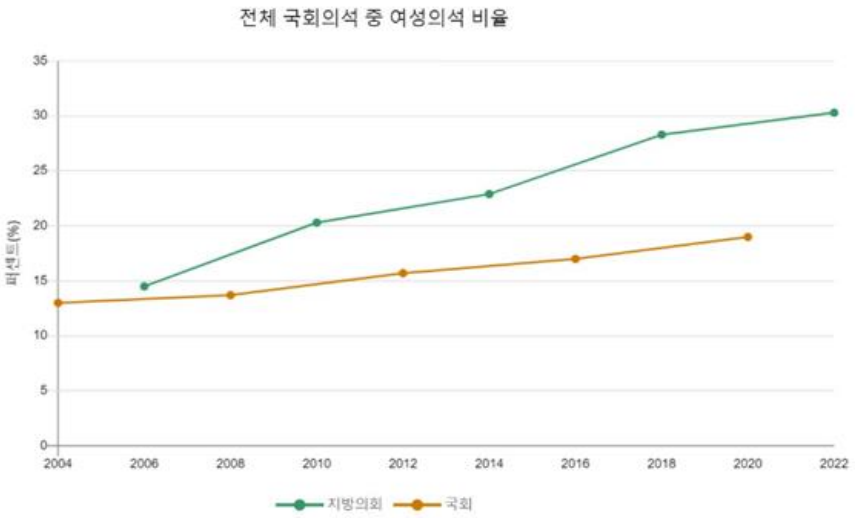
Ⅱ．研究の流れ

1．韓国の現状・日本の現状

私は初めに NHK NEWS WEB から以下の記事を閲覧しました。韓国の尹錫悦大統領は、大統領選の際に女性家族部の廃止を公約に掲げ、兵役が男性にだけ義務づけられていることなどを不平等と感じる若い男性からの支持を拡大させて当選したといいます。そして、尹錫悦大統領は 2022 年 10 月に女性家族部廃止を盛り込んだ組織改正案を公表したことを知りました。また、上の記事から韓国には女性の社会参画を推進する機関があること、近年では

女性のためではなく男女平等のためという動きが求められていることを学びました。

次に、女性議員について調査してみました。まず、インターネットで韓国の統計庁が行っている SDGs に関する統計のデータを調べました。その中でもジェンダーギャップ指数の一つの指標である政治参加についてのデータがあり、女性議員の比率はこのように示されています。



출처: 선거관리위원회
지역: 전국
단위: 퍼센트(%)

これは韓国の国会と地方議会における女性議員の席の割合を表したグラフです。黄色が国会、緑が地方議会です。緑色の地方議員は同じ水準にとどまっている国会議員の黄色いラインに比べて毎年高い数値を示していますが、どちらも 3 割以下となっています。

内閣府男女共同参画局によると、2023 年度の日本の女性議員比率は国会議員の衆議院参議院合わせて 15.6%、2021 年度地方議員は都道府県議会、市区町村議会合わせて 15.1%だそうです。グラフが示す数値は日本の女性議員の割合より多いですが、韓国は世界 121 位、165 位と、どちらも低い水準となっていることがわかりました。

次に私はジェンダーに対しての考え方における動きについて日本と韓国はどのような違いがあったのかを調べました。和田悠・井上惠美子（2011）によると日本では、2000 年代に、ジェンダーバックラッシュが起こっていたといいます。ジェンダーバックラッシュとはジェンダーフリーに対する反発、反感のことである。韓国では、日本のようなジェンダーバックラッシュが起こっていないということが分かりました。

2. インタビュー調査

私は大邱カトリック大学の５人の学生に意識調査（インタビュー）を行いました。

インタビュー時の質問事項・結果

（1）　あなたは SDGs について知っていますか？

はい　1 人　　いいえ　4 人

（2）　ジェンダーギャップ指数を知っていますか？

はい　2 人　　いいえ　3 人

（3）経済面において男女間に差を感じますか？また、どのような点において差を感じますか？

・一般的に女性より男性の方が高収入の傾向にあるという点

・女性は産休のブランクがあるという点

（4）政治参画において男女間に差を感じますか？また、どのような点において差を感じますか？

・女性議員より男性議員の方が圧倒的に多い

（5）福祉において男女間に差を感じますか？また、どのような点において差を感じますか？

・特になし

（6）教育において男女間に差を感じますか？また、どのような点において差を感じますか？

・男性は兵役で大学に行けない期間がある

・特になし

～結果の分析～

私がインタビューをした現場では SDGs やジェンダー指数について広く知られていないことがわかりました。そこで、

（1）については知らない人が知っている人より多いという結果になりました。

（2）についても知らない人が知っている人より多いという結果になりました。

（3）において、男性よりも女性の収入が低く、産休によるブランクがあるという意見がわかりました。

（4）において、女性議員より男性議員が多いという意見がわかりました。
（5）においては特に意見がないという結果になりました。
（6）においては、男性は兵役で大学に行けない期間があるという意見を知りました。

私は大邱カトリック大学の学生に伺った質問内容と同じ意識調査を大学の友人の家族を始めとした学外の５人に SNS を通じて話を聞くことにしました。

インタビュー時の質問事項・結果
（1）あなたは SDGs について知っていますか？
　はい　２人　　いいえ　３人

（2）ジェンダーギャップ指数を知っていますか？
はい　2 人　　いいえ　3 人

（3）経済面において男女間に差を感じますか？また、どのような点において差を感じますか？
・男性は社会に出るのが女性より二年ほど遅いという点
・一般的に女性より男性の方が高収入の傾向があるという点
・女性は産休のブランクがあるという点

（4）政治参画において男女間に差を感じますか？また、どのような点において差を感じますか？
・女性議員が男性議員より少ない

（5）福祉において男女間に差を感じますか？また、どのような点において差を感じますか？
・特になし

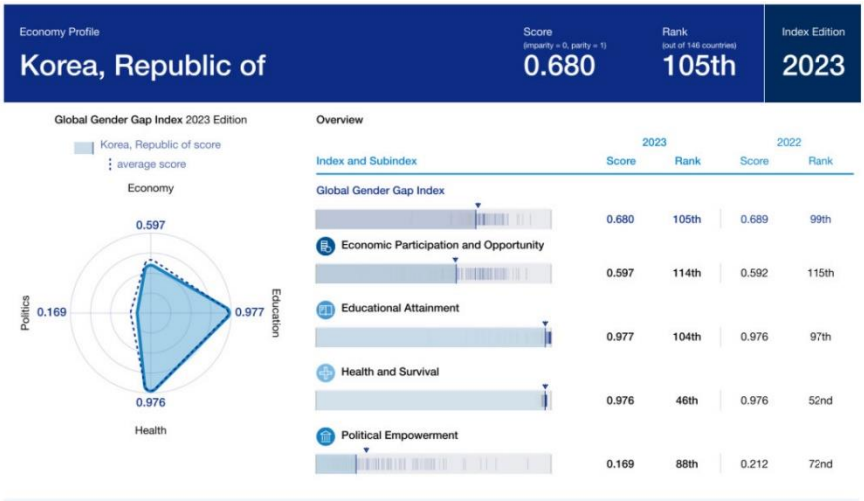
（6）教育において男女間に差を感じますか？また、どのような点において差を感じますか？
・特になし

～結果の分析～
　10 月 28 日から 11 月 28 日に学外でインタビューした結果、（1）において知っていると答え

たのは 3 人で、知らないと答えたのは 2 人でした。これは学内で実施したインタビューの結果と意義のある違いを示していません。SDGs について知っている人も、そして（2）のジェンダー指数については知っている人が2人で、知らないと答えた人は 3 人でした。多くないことがわかりました。また、実際に社会人に話を聞くと、「男性は社会に出るのが女性より二年ほど遅い」という（3）の質問、「経済面における男女間性差」についての意見が新たに得られ、学生からは聞くことができなかった意見を聞くことができました。（4）において学内のインタビューと同じく、女性議員より男性議員の方が多いという意見を知ることができました。（5）、（6）において意見はありませんでした。

実際に韓国で意識調査を行った結果、SDGs の認知や、男女格差に関しての認識が低いということがわかりました。ジェンダーギャップ指数の指標となる経済・政治・福祉・教育の四つの視点をもとにインタビューをしましたが、この中でも特に福祉についての男女格差についての認知度が低いと感じました。大邱カトリックの学内でのインタビューでも学外のインタビューでも福祉についての考えや意見を聞くことはできませんでした。また、教育面についても意見をあまり聞くことができませんでした。

そこで私は改めて韓国のジェンダーギャップ指数の四つの指標について調べてみることにしました。World Economic Forum の Global Gender Gap Report 2023 によるとジェンダー指数において以下の調査結果を見ることが出来ます。



このグラフによると韓国のジェンダーギャップ指数は 0.680、経済面において 0.598、教育面において 0.977、福祉において 0.976、政治面において 0.169 ということが読み取れます。教育面と福祉面は指数がとても高いことがわかり、このことから私は男女格差が少ないために認知度が低いのではないかと考えました。

一方、政治面での男女格差の指数は一番低く、2022 年度の 0.212 に比べて減少してしまいました。しかしインタビューで聞いた政治面の意見は経済面よりも少なかったです。

私はこのことから韓国の男女平等について、政治面の男女の差についての認識が最も必要だと考えました。政治面の男女の違いの現状やそれについて取り組まれている動きや制度についてもっと知っていく必要があると思いました。

Ⅲ.考察・結論

調査を通して分かった韓国と日本の違いは、女性議員の割合とジェンダーレスへの反感の歴史です。私見ですが、女性の国会議員の割合が高いと、女性支援に関する政策が実行されやすい、言い換えれば割合が低いと実行されにくいと私は考えます。したがって、もっと女性の政治参加を促進すべきではないでしょうか。しかし、2000 年代の日本は、女性活躍支援が進んでいないことは、ジェンダーバックラッシュが関係していると考えることがきます。そのため女性の政治参加を促進視するためには、政治における女性割合の低さの根本的な原因だと考えられるジェンダーバックラッシュが現代の社会にどのような影響を与えているかをさらに調べる必要があります。そこで私は「日本での意識調査を行う」、「政治的な背景だけでなく、日本人に根付いている考え方を検討する」ことが今後の日本の男女平等を目指すために必要な調査だと思いました。

また、今回の韓国での留学中に設定した「ジェンダー平等を実現するために」というテーマを達成するためには、SDGsについての認識を広めることが鍵になると思います。また、上記でも述べた通り、政治面の男女格差を始めとしたジェンダーギャップについて知ることが最も重要だと感じました。知ることによってこれから私たちにできること、どんな取り組みに参加してどのような対策をすることができるかについて考えることができると思います。具体的な行動の前にジェンダーギャップについての知識や問題についての態度を改める必要があるということがわかりました。今回の留学中の調査も改めて男女の格差についての知識を得て、現状を知る良い機会になったと思います。調査が終わっても日々情報にアンテナを張り、知識を得て自分に出来ることについて考え続けていきたいと思います。

Ⅳ. おわりに

以上のことから私が日本に提案することは、「学生に日本と世界のジェンダーギャップの現状について知る機会を設けること」です。現状を認知することで意識を変え、意識を変えることで現状を変えることができるのではないだろうかと私は考えました。例えば、図書館にジェンダーギャップについての本の設置を増やしたり、小学校の課外活動で男女平等について知る、考える時間を設けたりすることが挙げられます。

今回の研究を通して、私が行いたかった調査は十分に行えなかったと感じています。私は

9 月に新型コロナウイルスに、11 月にインフルエンザに感染したため、フィールドワークを実施する時間を多く確保することができませんでした。また、4 か月は研究課題を行うには短い期間だったと思います。満足のいく形で課題を終えることはできませんでしたが、そんな中でも男女平等という一つのテーマに向き合ったこの 4 か月間は持続可能な社会を実現するために必要な知識を得る良い機会となりました。男女平等という課題を達成するためには人々の意識が必要であるため、今回私が取り組んだような研究を行う機会、現状や情報を知る機会が日本のみならず世界の多くの人に与えられるようになればいいと思います。

（4765 字）

【参考文献一覧】

池本美花・韓松花「日韓比較からみる女性活躍支援の方向性」(『特集　社会保障と税制 ：財政健全化・経済活性化の視点からどう改革すべきか』日本総研、２０１４年）
https://www.jri.co.jp/MediaLibrary/file/report/jrireview/pdf/7305.pdf

和田悠・井上恵美子「1990 年代後半～2000 年代におけるジェンダーバックラッシュの経過とその意味」(フェリス女学院大学多文化・共生コミュニケーション学会編『多文化・共生コミュニケーション論叢』6号、２０１１年３月）
https://ferris.repo.nii.ac.jp/records/841

NHK オンライン「韓国　ユン大統領が公約に掲げた「女性家族省」の廃止案公表」
URL : https://www3.nhk.or.jp/news/html/20221006/k10013851011000.html

韓国統計庁「(a) 国会の女性議席比率 (b) 地方政府の女性議席比率」URL :
https://kostat-sdg-kor.github.io/sdg-indicators/5-5-1/

内閣府男女共同参画局「女性活躍・男女共同参画における現状と課題」
URL：https://www.gender.go.jp/kaigi/senmon/wg-nwec/pdf/wg_01.pdf

World Economic Forum 「Global Gender Gap Report 2023」 URL：WEF_GGGR_2023.pdf (weforum.org)